

令和3年度 学校全体の自己評価

栃木県立足利女子高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒の主体性を育む指導
- (2) 主体的な進路実現を促す進路指導
- (3) 深い自己理解と他者を尊重する姿勢やふるまいを育む指導
- (4) 新校への円滑な移行とファイナルイヤーとしての「足女」の完成

2 重点目標の自己評価

重点目標	評価の基準	自己評価	学校関係者評価
(1) 生徒の主体性を育む指導	・各部、学年の(1)に該当する項目の合計点 A:25点以上、B:24点以下～0点、C:0点未満	B	コロナ禍の中、個々の生徒に合わせた細やかな指導を行い成果を上げている。生徒達は学習活動、教科外活動に主体的に取り組んでいる。
(2) 主体的な進路実現を促す進路指導	・各部、学年の(2)に該当する項目の合計点 A:14点以上、B:13点以下～0点、C:0点未満	B	部と各学年が連携し、生徒の学力や志向に基づいた細やかな情報提供や有効な助言等、充実した指導がなされている。
(3) 深い自己理解と他者を尊重する姿勢やふるまいを育む指導	・各部、学年の(3)に該当する項目の合計点 A:22点以上、B:21点以下～0点、C:0点未満	B	生徒の様子から、充実した指導がなされていることが感じられる。ボランティア活動等への更なる取組を期待する。
(4) 新校への円滑な移行とファイナルイヤーとしての「足女」の完成	・各部、学年の(4)に該当する項目の合計点 A:11点以上、B:10点以下～0点、C:0点未満	B	新校への円滑な移行は着々と確実に進められている。ファイナルイヤーとしての充実した学校生活を生徒主体で作り上げている。

評価の基準：①各部、学年の重点目標の評価を【A:1点、B:0点、C:-1点】とし、該当する項目(1)～(4)に分類したときの合計点

②各部・学年の重点目標で(1)～(4)それぞれに該当数する項目数：(1)=41 (2)=22 (3)=36 (4)=18)
としたとき、①÷②が【A:60%以上、B:60%未満～0%、C:0%未満】

自己評価：A～Cの3段階 【 A:十分に達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった 】

3 各分野での自己評価

分野	評価内容	評価の基準	自己評価	学校関係者評価
(1) 組織運営	・校長と教頭が学校運営でリーダーシップを発揮し、各主任を中心として、全職員が目標の達成に向かって努力したか。	・目標の達成に向かって、組織的な取り組みを図ったか。 ・それらの取組によって効果を上げたか。	B	全職員が力を合わせ、統合業務を順調に進行させながら、本来業務を推進し、成果を上げている。
(2) 職員の資質向上の取組	・さまざまな校内研修、授業研究、授業評価をとおして、職員の意識変容や授業改善に向けての取組ができたか。	・校内研修等をとおして職員の意識や取組に変容が見られたか。 ・それらの取組によって、授業改善がなされたか。	B	様々なツール・手法を活用した取組を行っている。タブレットの更なる活用を期待する。
(3) 生徒の学力向上の取組	・学習指導部、進路指導部、教科、学年の連携により、学力向上に向けた課題の把握とその解決を図る組織的な取組ができたか。	・学力向上に向けた部、教科、学年の連携が十分になされたか。 ・取り組みをとおして、生徒の学力の向上がみられたか。	B	各部、学年、教科が連携し、指導に当たっている。生徒の実態に応じた細やかな対応の継続を期待する。
(4) 職場環境づくり(不祥事防止)(働き方改革の推進)	・日頃の校内研修や人間関係づくり等により、不祥事防止に向けた危機管理意識の高揚が図られたか。 ・生徒と向き合う時間をより多く創出するための働き方改革への取組ができたか。	・不祥事防止のための危機管理自校マニュアルの実践等をとおして、不祥事防止に向けた職場環境づくりができたか。 ・生徒と向き合う時間を、より多く創出することができたか。	B	不祥事防止に向けた良好な環境作りがなされている。生徒としっかりと向き合いながら教育活動を行っている。
(5) 安心安全な学校環境づくり	・全ての教育活動の場面で、生徒の安全を確保するための取組ができたか(感染症対策の強化を含む)。 ・いじめ防止の意識を高める取組ができたか。	・感染症対策への強化を含め、生徒の安全確保のための取組ができたか。 ・いじめ防止への適切な取組ができたか。	B	生徒の安全確保に向けた感染症対策、いじめ防止の取組がなされ、充実した教育活動につながっている。

自己評価：A～Cの3段階 【 A:十分に達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった 】